

川づくり

河川の取組

【 生きている川づくり 】

北海道では、平成6年9月に「北海道の川づくり基本計画」を策定しています。この中で、多様な植物が育ち、多くの生きものが棲む「生きている川」を北海道の目指す川の姿として位置づけています。

北海道の川づくりは、次の4つの方針のもとに、長期的な視野に立って豊かな自然をもった「生きている川」を目指しています。



河道の連続性を確保

－ 生きている川づくりの事例 －

また、河川改修前の河床勾配（上流から下流に向かっての川底の傾き）を考慮して、できるだけ落差工などをつくらないようにしたり、落差工が必要な場合は、川の特성에応じた魚道をつくるなど、河川の連続性を確保しています。

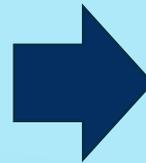
下記の河川では、既設の落差工に魚道を整備することにより、魚類の遡上や降下がスムーズとなり、河川環境の改善が図られました。

《 魚道の整備前 》



喜茂別川（喜茂別町）

落差工の設置によって、川底に落差が生じ、魚類の遡上や降下に支障となっていた。



《 魚道の整備後 》



喜茂別川（喜茂別町）

魚道の整備により、魚類の遡上や降下がスムーズとなった。

治山の取組

治山事業では、山地災害の未然防止を図るため、土砂災害の軽減などを目的として、治山ダムを設置しています。一方で治山ダムの落差により、魚類等の遡上・降下に支障が生じることから、魚道の設置など溪流生態系に配慮した治山ダムを設置することにより、国土の保全と生物多様性の保全との両立に取り組んでいます。



改良前

治山ダムの落差により、魚類の遡上・降下に支障が生じていた。

改良後

魚道を設置することにより、魚類の遡上降下活動が可能になった。

農業農村における取組

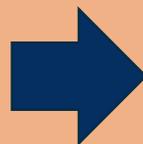
下記の地域は、サケ・サクラマスなどが遡上し水産資源が豊富な地域ですが、農業用排水路として整備された落差工により、魚の遡上・降下に支障が生じていました。

落差工に魚道をつくることにより、魚の遡上や降下がしやすくなり、河川生態系の改善を図ります。

《 魚道の整備前 》

ポンキキン川（津別町）

落差工の高さは1.5～2.1mあり、魚類の遡上や降下に支障が生じていた。



《 魚道の整備後 》

ポンキキン川（津別町）

魚道をつくることにより、魚の遡上や降下を図ります。

